

# 高岡市 文化に関する市民ニーズ調査 報告書【概要版】

## 調査の目的

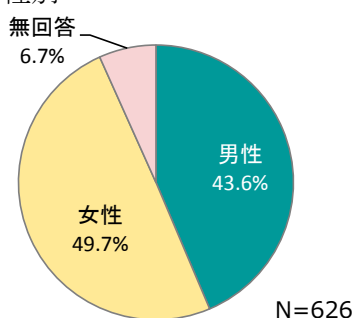
本調査は、高岡市の文化振興施策を進めるための基礎資料とするもので、市民の文化芸術に関する意識や行動およびニーズ等について、市民の考えを幅広く聴取することを目的として実施した。

## 調査概要

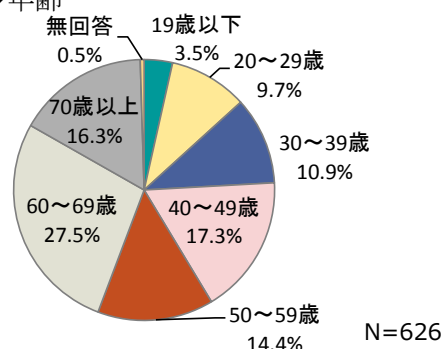
調査期間：平成 29 年 11 月 1 日～11 月 30 日  
 調査対象：15 歳から 79 歳までの市民 2000 人を無作為に選び、調査票を送付  
 回収結果：回収数 626 人（回収率 31.3%）

## 回答者の属性

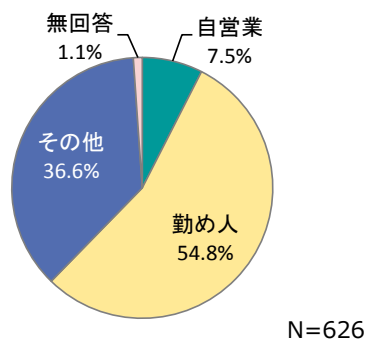
### ◆性別



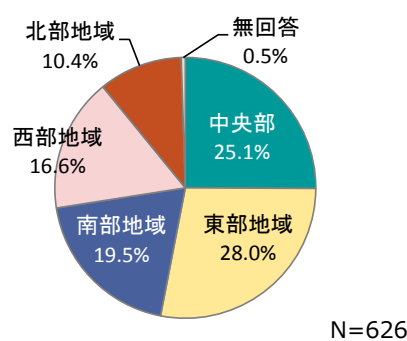
### ◆年齢



### ◆職業



### ◆居住地域



高岡市内の 26 地区を便宜上の 5 地域に分類する。

中央部	東部地域	南部地域	西部地域	北部地域
平米	下関	二塚	立野	二上
定塚	能町	佐野	東五位	守山
博労	牧野	福田	石堤	伏木
横田	野村	小勢	国吉	太田
西条		戸出	福岡	
川原		中田		
成美				

## この冊子のみかた

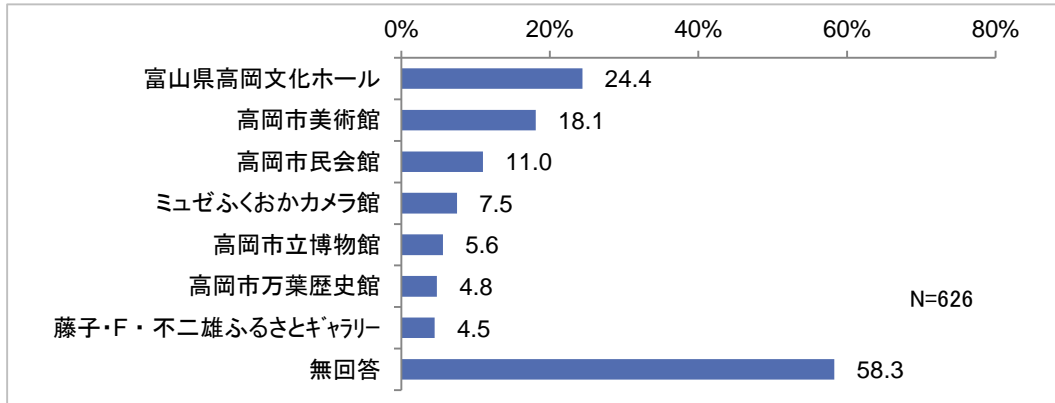
図表中の回答比率は百分比で表示し、小数点以下第 2 位を四捨五入した。したがって百分比の合計が 100%とならない場合がある。また、複数回答の場合は合計が 100%を超える。

図表中の N（number of case）は回答者の総数、あるいは分類別の該当対象者数を表す。

## I 文化の鑑賞状況について

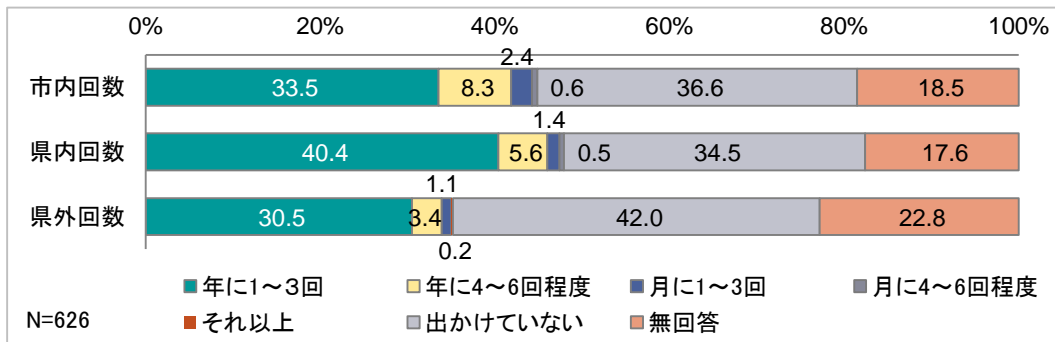
### ●この1年間で出かけたことがある文化施設

- ・市民が出かけたことが最も多い市内の文化施設は、「富山県高岡文化ホール」である。一方で無回答だった人は58.3%と6割近くを占め、この中にはどの施設へも行っていない人が多く含まれると考えられる。また、各施設での鑑賞内容等は、コンサートや学校関係の演奏会等、各種企画展の鑑賞などのほか、スタンプラリー等鑑賞以外で訪れたという回答もあった。



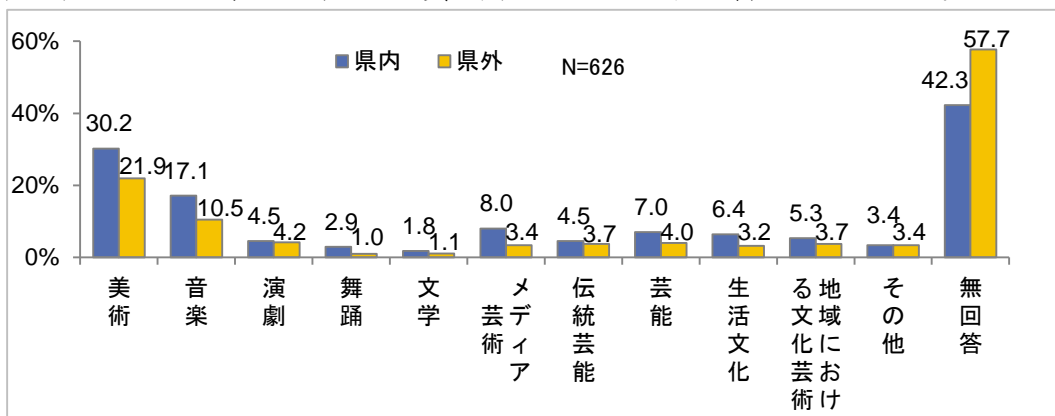
### ●この1年間で文化施設に出かけた回数

- ・市内の施設へは、3分の1の人が「年1~3回」出かけている。一方で「出かけていない」人も3分の1程度であり、無回答もあわせると、全体の半数以上の人々が文化施設を利用していないことも考えられる。出かけている割合は市内の施設より、県内各市町村の施設の方が高い。また、30歳代や勤め人が文化施設に出かけた割合が低い。



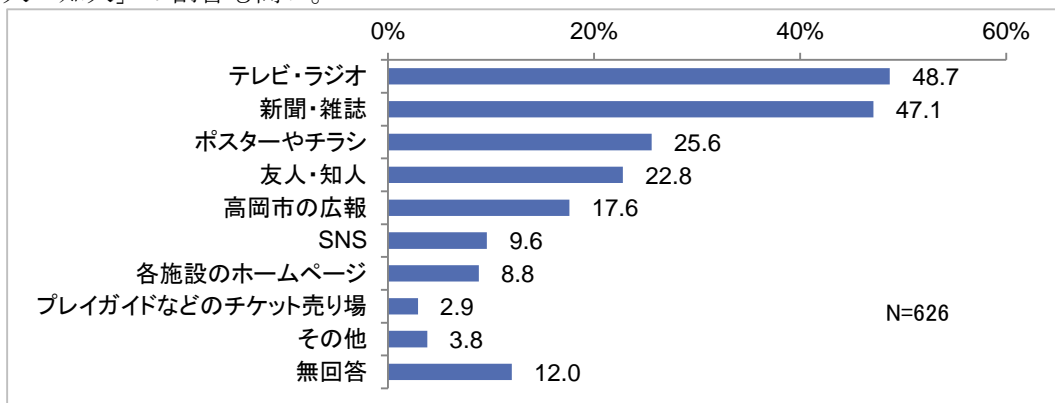
### ●この1年間に文化施設で鑑賞したもの

- ・県内外施設ともに、「美術」、「音楽」の鑑賞が多い。また、無回答の割合が県内4割、県外約6割を占めているが、この中には鑑賞に出かけていない人が含まれていると考えられる。



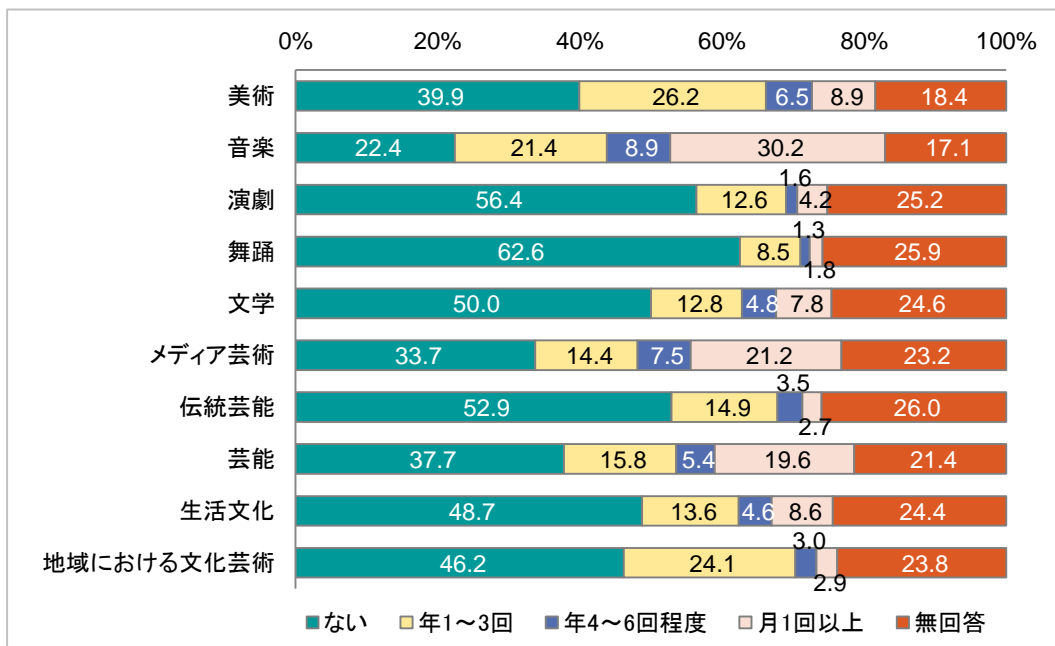
### ●文化情報の入手先

- ・情報の主な入手手段は、「テレビ・ラジオ」や「新聞・雑誌」であり、全体の半数程度を占める。  
しかしながら、20歳代を中心に若い世代では「SNS」が、年齢の高い人は「高岡市の広報」、「友人・知人」の割合も高い。



### ●家庭での文化鑑賞

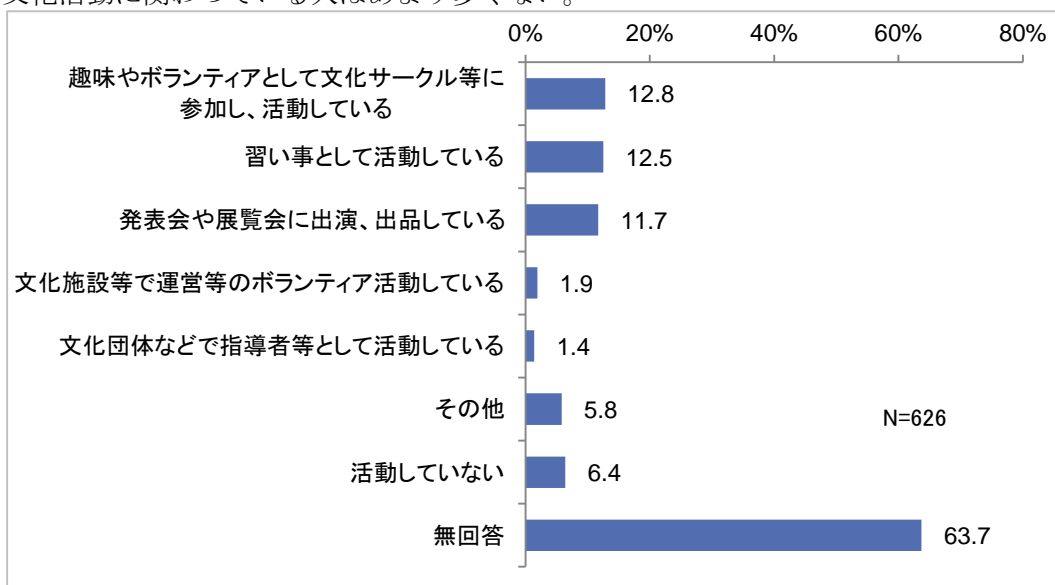
- ・音楽を除いて、どの分野においても家庭での鑑賞が「ない」と回答した人は3割以上で、特に、「舞踊」、「演劇」、「伝統芸能」、「文学」は5割を超える。



## Ⅱ 文化活動の実践状況について

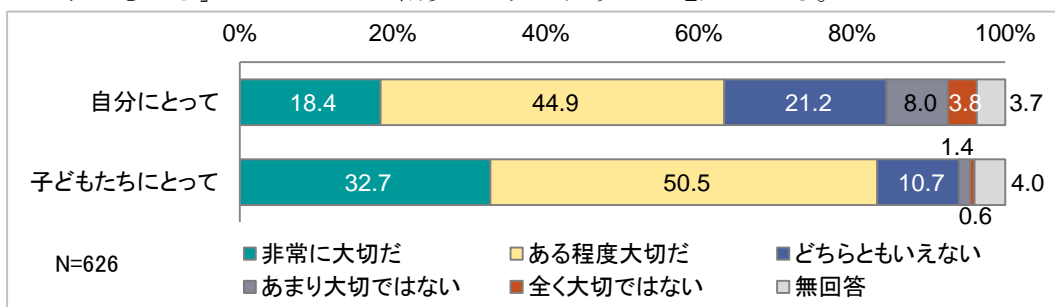
### ●文化活動への関わり方

- ・文化活動に関わっている人はあまり多くない。



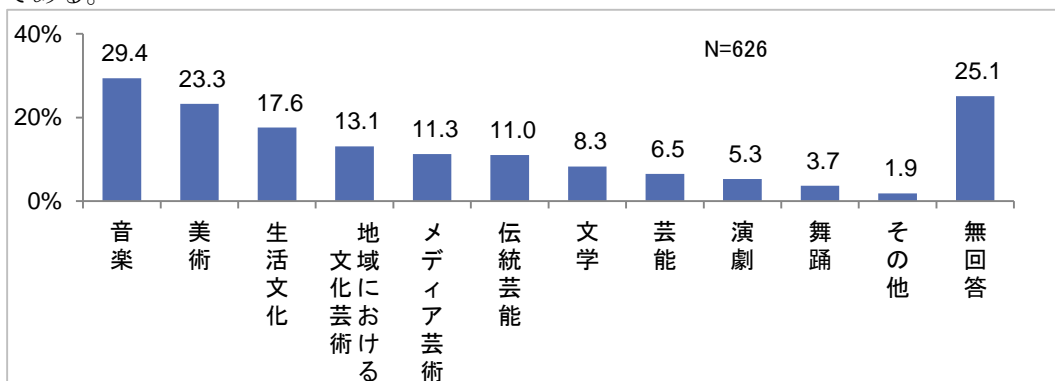
### ●日常生活で文化活動を実践することは大切か

- ・「自分にとって」も「次代を担う子どもたち」にとっても大切だと思う人は6割以上であり、特に「子どもたち」にとっては8割以上の人が大切だと感じている。



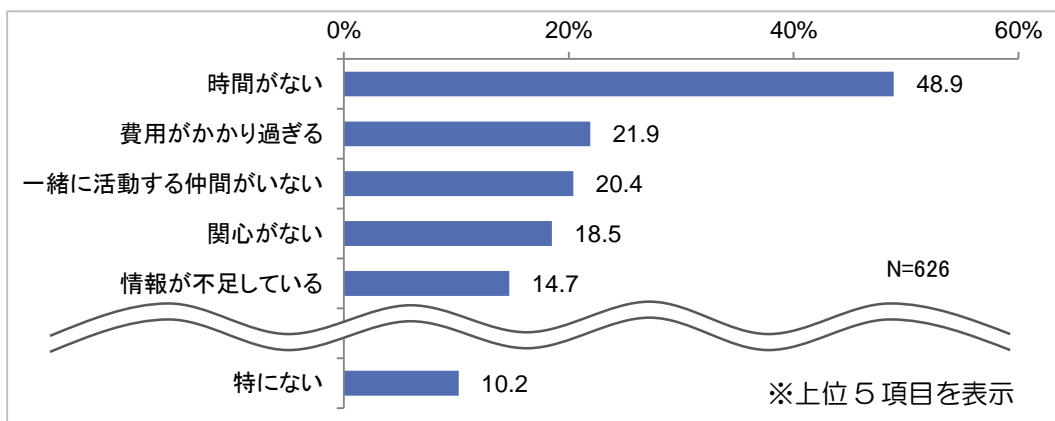
### ●今後行いたい文化活動

- ・今後行いたい文化活動は、比較的身近で取り組みやすい「音楽」、「美術」、「生活文化」が上位である。



●文化活動を行う上で支障となっていること

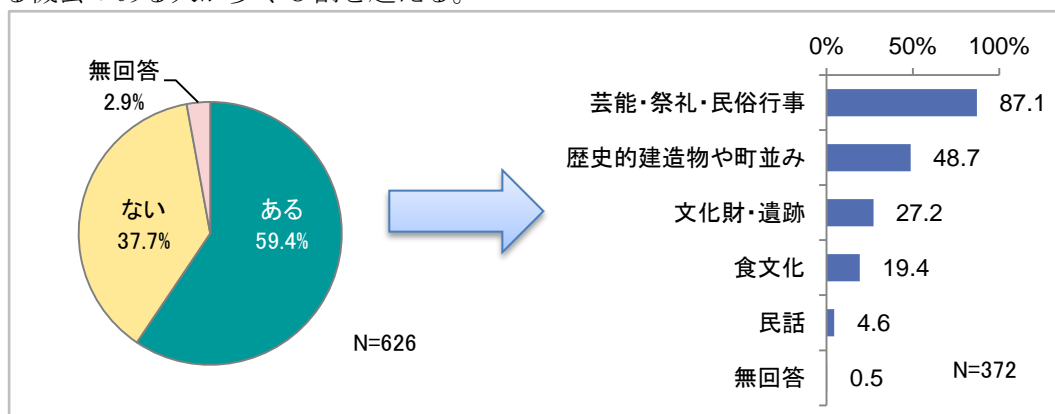
・「時間がない」ことが、文化活動を行う上で一番の支障である。



### Ⅲ 文化への認識

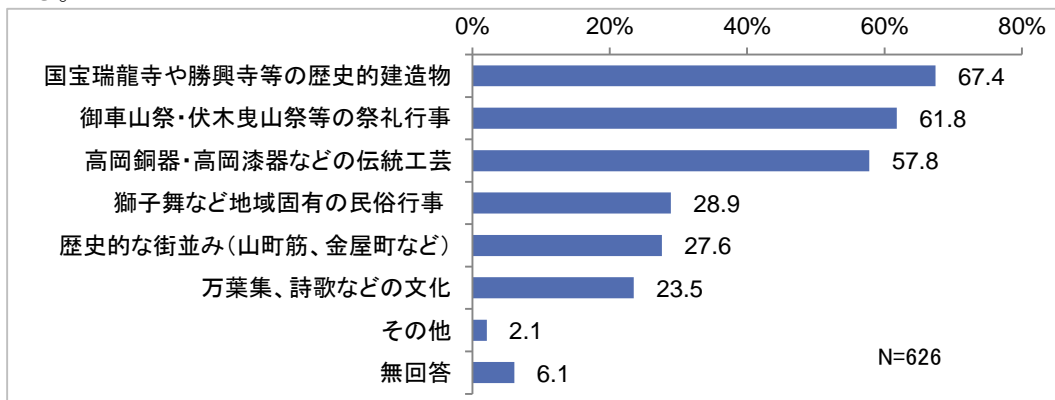
●日常生活の中で地域の文化に触れる機会の有無とその内容

・地域の文化に触れる機会が「ある」人が半数以上。そのうち「芸能・祭礼・民俗行事」に触れる機会のある人が多く8割を超える。

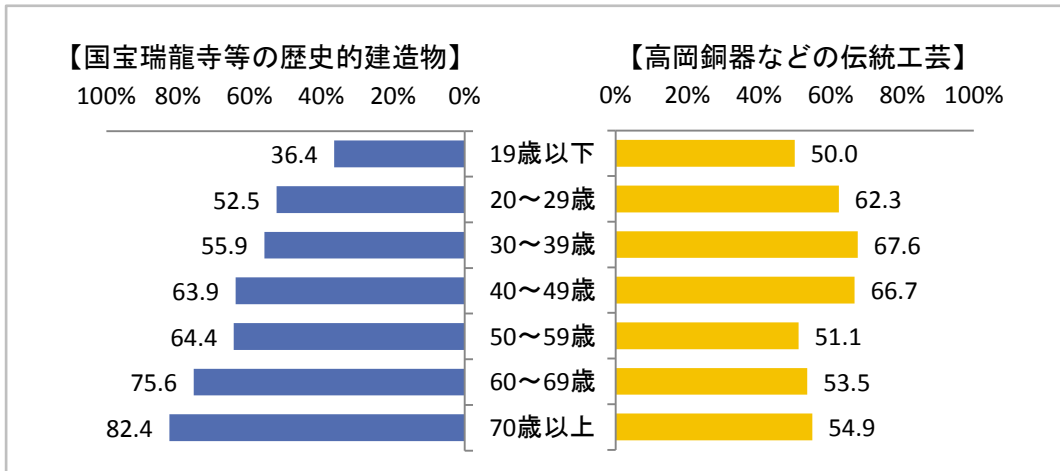


●国内外に誇れる高岡の文化

・最も誇れる文化として、「国宝瑞龍寺や勝興寺等の歴史的建造物」、「御車山祭・伏木曳山祭等の祭礼行事」、「高岡銅器・高岡漆器などの伝統工芸」が多く挙げられており、それぞれ5割を超える。

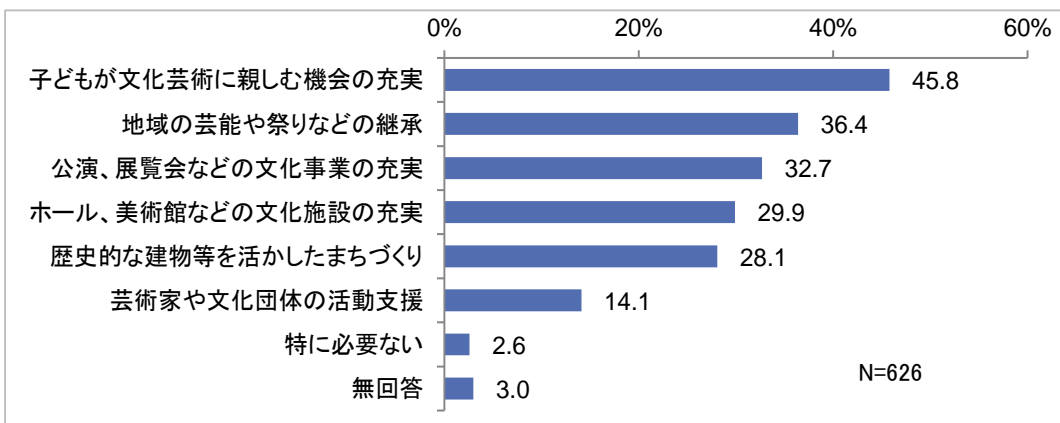


- ・「誇れる文化」について上位2項目の年齢別の回答をみると、年齢が上がるほど「国宝瑞龍寺や勝興寺等の歴史的建造物」を挙げる割合が高く、一方、若い世代では「高岡銅器・高岡漆器などの伝統工芸」を挙げる割合が高い。



●文化をより身近に感じるために必要なこと

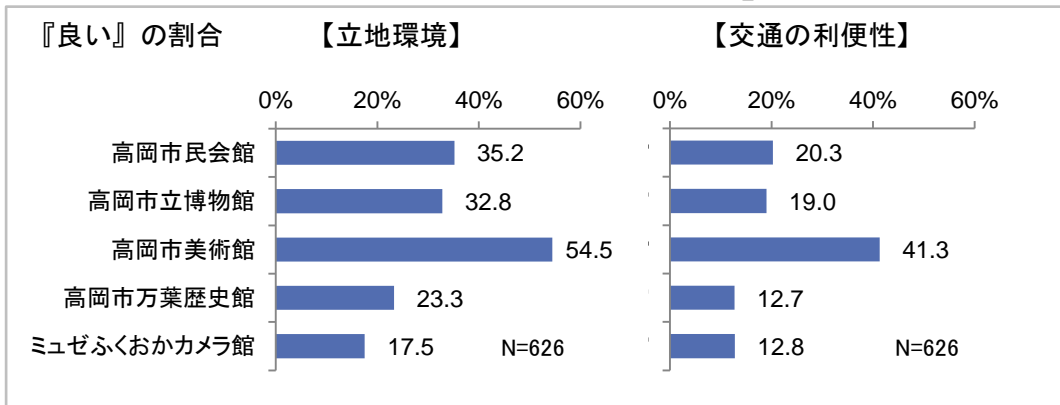
- ・「子どもが文化芸能に親しむ機会の充実」が必要だと思う人が最も多い。



## IV 文化施設に対する市民の意識について

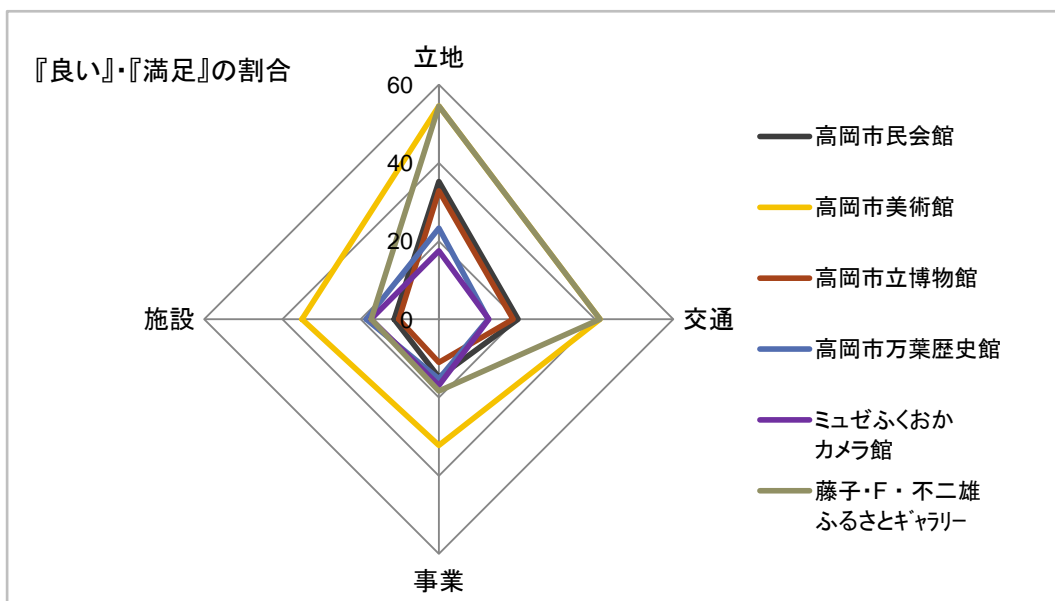
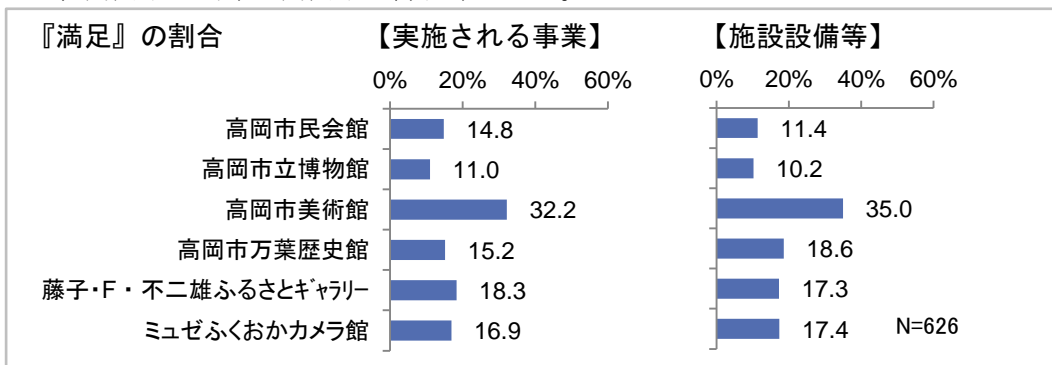
●古城公園内の市民会館や博物館、文化の森にある美術館等の立地環境や交通の利便性について

- ・「立地環境」、「交通の利便性」とともに高岡市美術館は『良い』とする割合が高い。



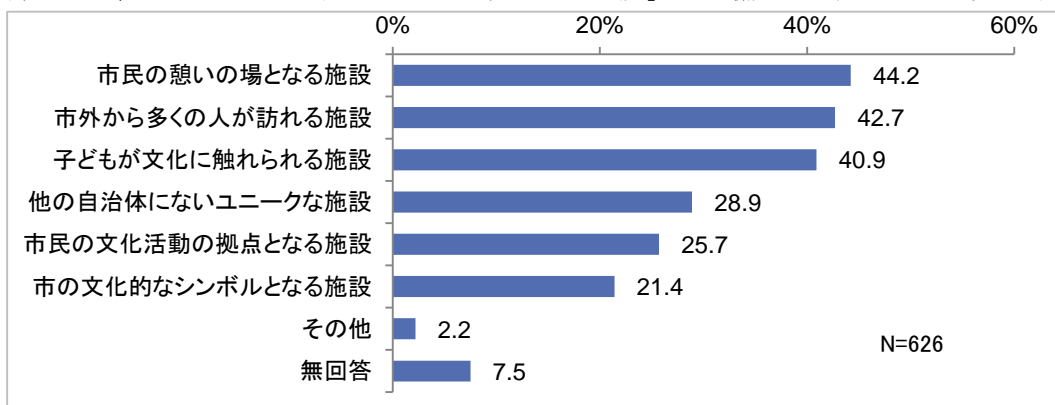
●文化施設で行われている事業や、施設設備等についての満足度

- ・「実施される事業」、「施設設備等」ともに、高岡市美術館の満足度が高い。比較的満足度が低いのは、高岡市民会館と高岡市立博物館である。



●市内の文化施設を文化の新たな拠点とするために必要な施設整備

- ・新たな文化拠点として「市民の憩いの場となる施設」の整備が必要であると考える人が多い。



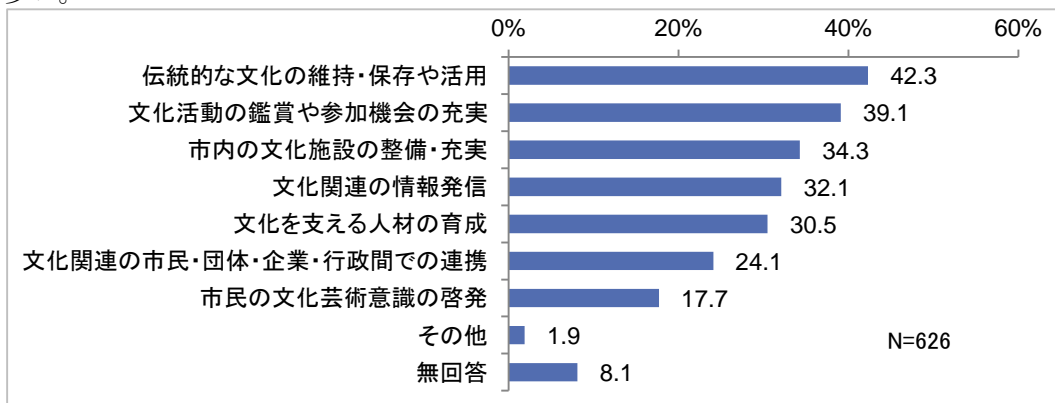
●文化施設をより魅力的にするためには

- ・展示やイベントの内容充実に関する意見が多く、特に、新しいもの、若者の興味を引くもの、県外からも人が訪れるようなものが求められている。
- ・施設や設備については、魅力的な外観の施設、カフェやレストランの併設、世代を超えて楽しめるもの、交通の便の良い立地などが求められている。

## V 今後の取組みについて

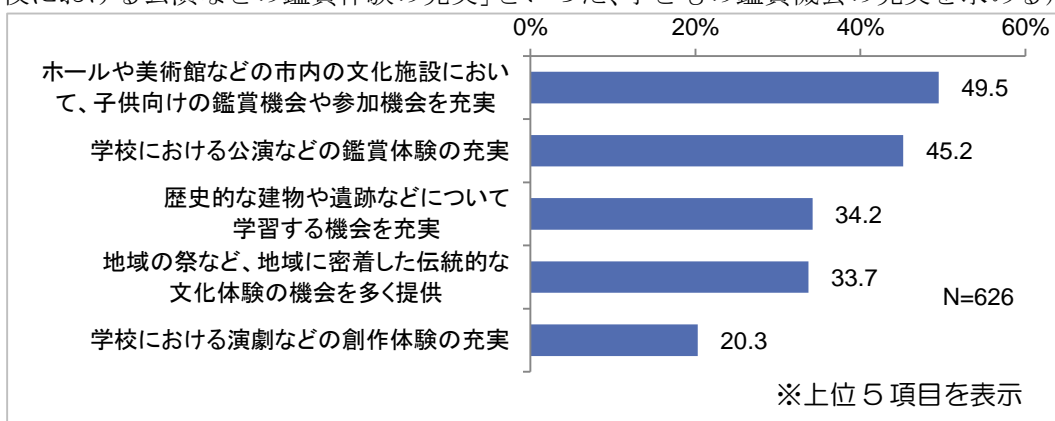
### ●文化の振興を図っていくために、市が担う役割

- ・文化振興のために、市は「伝統的な文化の維持・保存や活用」を担うべきであるとする意見が多い。



### ●子どもたちに対する文化活動を充実するために重視すべき取組み

- ・「ホールや美術館などの市内の文化施設において、子供向けの鑑賞機会や参加機会を充実」や「学校における公演などの鑑賞体験の充実」といった、子どもの鑑賞機会の充実を求める声が多い。



### ●市を文化創造都市として認知するために、市民が担えること

- ・子どもたちの文化活動に「ボランティアとして参加」できるとする人は多いものの、ほとんどの取組みで「担えることはない」とする人の割合が高い。

